

大会施設工事における安全衛生対策の実施状況 (2017年3月末現在)

資料2

① 発注者等による安全衛生の取組

基本方針	対策の実施状況
<ul style="list-style-type: none">発注者による安全衛生経費の適切な積算、施工者間の請負契約における安全衛生経費の明確化	<ul style="list-style-type: none">標準仕様書及び積算基準に基づき、安全衛生対策に必要な直接工事費、共通仮設費、現場管理費を適切に計上している。仮設足場については、手すり先行工法によることを特記仕様書に明示し、必要な経費を積算している。下請け契約においては、安全衛生に係る金額が当該契約金額に含まれることを明記している。建設工事従事者の健康保持、災害防止の観点から、週休2日が可能となるように工期を設定した。
<ul style="list-style-type: none">設計段階における施工時の作業性・安全性への配慮	<ul style="list-style-type: none">設計段階において、大屋根を地上段階で組み立ててからリフトアップ工法により所定の高さまで上げる計画とした。設計段階において工事施工等業務の知見を活用して、施行時の作業性・安全性に配慮した設計内容を検討し反映した。仮設支保工の方法について設計段階で見直しを行い、切梁の段数を減らすことで作業性と安全性の向上を図った。各部躯体のPC化を図り、作業の平準化と高所作業の削減を行った。詳細設計段階において、専門工事業者の協力のもと、施工・制作の知見を活かした実施設計図を作成した。

大会施設工事における安全衛生対策の実施状況

① 発注者等による安全衛生の取組

基本方針	対策の実施状況
<ul style="list-style-type: none">発注者・設計者から施工者への的確な情報提供・指示、隣接工事の発注者による連絡調整の場の設置等	<ul style="list-style-type: none">発注者・設計者・監理者・施工者が参画する会議において情報の共有、連絡調整を行っている。隣接する工事業業者や工事区域がある公園管理者を含めた連絡会議を設置し、公衆災害の防止を含めた安全対策について情報を共有し、調整を行っている。発注者の意志決定に要する時間が長くなることによる工期圧迫への影響を避けるため、受注者からの相談に対してはワンデーレスポンスを心がけている。
<ul style="list-style-type: none">②から④の対応状況の確認	<ul style="list-style-type: none">発注者・監理者・施工者が一緒に職場巡視を行い、施工状況を確認している。毎月の工事報告書により安全衛生対策の実施状況を確認するとともに、工事現場を訪れる都度、安全施工や工夫事例について情報交換を行っている。休日日数の取得に関する計画書の定期的な報告を求めるなど、対策の取組状況を確認している。
<ul style="list-style-type: none">その他	<ul style="list-style-type: none">受注者の選定に当たっては、安全成績や安全対策に関する技術提案を評価要素の一つとした。工事区域内水路における船舶の航行安全を図るため、とうきょうポートラジオを活用し、工事用船舶を一般船舶と一体で運航支援を行っている。工事施工中の事故に対する一連の報告、調査体制等について具体的な運用を定め、再発防止に向けての検討等を実施することとしている。

大会施設工事における安全衛生対策の実施状況

② リスクアセスメントの実施促進等

基本方針	対策の実施状況
<ul style="list-style-type: none">• リクアセスメントによる、より安全な工法の選択、リスク低減策の評価と改善	<ul style="list-style-type: none">• 設計段階の施工技術検討業務においてリスクアセスメントを実施し、リスクの低減を図った施工計画を立案し、設計に反映した。• 作業毎に危険予知ミーティングを行い、リスクアセスメント手法を用いた安全管理を日常的に実施している。• 日々の現地 K Y においてリスクアセスメント K Y 書式を活用し、当日の作業内容・役割・危険の予測と評価・対策について確認した上で始業している。
<ul style="list-style-type: none">• 元方事業者による現場の統括安全衛生管理	<ul style="list-style-type: none">• 関係請負者が参集した、安全衛生協議会を開催し、日々の作業間連絡調整や現場巡視を通じて、統括安全衛生管理を実施した。• 毎日定時に打合会を開催し、作業間の連絡調整や現場巡視結果の共有と関係請負人に対する指導を実施している。• 所内安全検討会（現場職員）→安全検討会（部長・工事長・現場職員）→災害防止協議会→安全教育訓練をサイクルとして実施した。• 工事ごとの当月の安全目標に対する評価、改善策をフォローアップし、翌月の安全目標に改善策を盛り込んでいる。
<ul style="list-style-type: none">• 工事従事者の経験や能力、立場等に応じてきめ細かい教育	<ul style="list-style-type: none">• 新規入場者教育時に資格・健康状態等を確認し、役割を明確化するように指導している。• 工事経験や能力に関わらず、作業するための服装・保護具の指導を全作業員に対して実施している。また、機械・工具を扱う作業において、経験の浅い作業員を中心に安全衛生教育を徹底し、災害防止に努めている。• 工事の進捗状況に合わせて、参考となる災害事例集の読み合わせ会を実施し、意見交換をすることで災害防止についての理解度を深めるようにしている。

大会施設工事における安全衛生対策の実施状況

② リスクアセスメントの実施促進等

基本方針	対策の実施状況
<ul style="list-style-type: none">危険箇所や視覚的に捉えられない危険の「見える化（可視化）」	<ul style="list-style-type: none">作業区画、作業通路を明確に表示し、重機・工事車両と作業員の接触防止を図った。重機作業旋回の全体表示、安全通路に決まった色のバリケードを設置している。車両ゲート部の両側に視認性の向上を目的とした透明仮囲いを設置することにより、歩行者と工事車両の接触を未然に防ぐ対策を実施した。敷き鉄板の段差、ステップや階段の最上段に色付けし、注意喚起を促している。作業主任者、合図者などにカラーベストを着用させることで重責を自覚させるとともに、周囲の作業員からも視認しやすくしている。
<ul style="list-style-type: none">その他	<ul style="list-style-type: none">転倒災害のリスク低減のために、朝礼時に「腿上げ運動」を実施している。重機設置地盤は、予め平板載荷試験を行って安全を確認している。元方職員を対象に定期的に安全衛生チェックテストを実施し、安全衛生に係る法規の理解を深めるとともに、不確かになっている記憶を再確認させている。

大会施設工事における安全衛生対策の実施状況

③ 墜落・転落災害等の防止徹底

基本方針	対策の実施状況
<ul style="list-style-type: none"> 高所作業を少なくするような観点からも工法を検討 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎工事については、基礎工事の高所作業を低減するよう、基礎のPC化を計画している。 施工階で行う鉄筋工事の一部を地上での地組みに代替することで、高所で行う作業工程を減らしている。 高所作業車による伐採の頻度を低減させるため、幹や枝を掴みながら切断することができるバケットをバックホウに取付け、当該バックホウによる伐採を行った。 屋根鉄骨と屋根の仕上材・設備材をユニット化し、地盤レベルで地組することで高所での組立作業を低減している。
<ul style="list-style-type: none"> 足場を設置する際のより安全性の高い措置 	<ul style="list-style-type: none"> 安全性の高い手摺先行工専用足場を使用している。 足場設置後の使用前点検、強風地震後の点検等を徹底し、安全性確認に努めている。 開口部等には安全带取付設備を確実に設置し、安全带の使用が可能となる作業環境を整備するとともに、移動が激しい作業において安全带の2丁掛けを徹底している。
<ul style="list-style-type: none"> 墜落時に身体への衝撃が少ないハーネス型安全带を積極的に採用 	<ul style="list-style-type: none"> ハーネス型安全带を標準装備として装着させて作業を実施させている。 鉄骨建方作業、PCa取付作業、高さ5m以上の足場の組立・解体の作業等に従事する作業者には、ハーネス型安全带の使用を義務づけている。
<ul style="list-style-type: none"> 埋設物・架空線の破損事故、資機材の落下、工事車両による交通事故等の公衆災害の防止 	<ul style="list-style-type: none"> 試験堀り及び系統調査を行い、埋設位置を明示した。 埋設物に対しては、各業種の立会いのもと、掘削作業を実施した。また、橋げた等との近接作業においては専任の監視者を配置し、接触・破損を未然に防ぐ対策を行った。 資機材の搬出入には誘導員を3名配置し、第三者最優先の誘導を実施している。
<ul style="list-style-type: none"> その他 	<ul style="list-style-type: none"> 三点式杭打ち機の転倒事故を防止するために、作業に当たって社員と下請の安全衛生責任者のダブルチェック体制を取っている。

大会施設工事における安全衛生対策の実施状況

④より魅力ある建設現場の構築

基本方針	対策の実施状況
<ul style="list-style-type: none">先進的な安全技術や安全管理手法を積極的に採用	<ul style="list-style-type: none">鉄骨組立作業の作業姿勢や取付方法を3Dで事前にシミュレーションすることで、安全計画を事前に立案している。重量物運搬作業について、作業を補助するアシストスーツを採用し、高齢者や女性技術者に対し体力面でのサポートを行っている。腰痛予防も考慮し、自動コンクリート均ロボットを導入してコンクリート均し作業を自動化している。作業員と重機が近接すると重機キャビン内と作業員が着用しているチョッキから警報がなる重機接近警報装置を設置している。部外者の侵入を防ぐため、作業員の入退場時に静脈認証を実施している。複数台のITカメラを設置し、場内の安全確保について常時監視を行っている。
<ul style="list-style-type: none">熱中症予防、メンタルヘルス対策等の工事従事者の健康管理	<ul style="list-style-type: none">メンタルヘルスの未然防止対策として、管理職に対しメンタルヘルス研修を実施している。朝礼後のKY活動において、職長等の責任者が作業員の体調を確認し、作業が可能であるかどうかを判断している。熱中症予防対策キットを常備するとともに、携帯危険指数計を使用し、熱中症予防に努めている。

大会施設工事における安全衛生対策の実施状況

④より魅力ある建設現場の構築

基本方針	対策の実施状況
<ul style="list-style-type: none">女性専用のトイレ・更衣室の設置、受動喫煙防止対策の徹底や長時間労働の縮減など、これからの時代に相応しい現場づくり	<ul style="list-style-type: none">女性専用のトイレ・更衣室のほか、仮眠スペース・シャワー等を設置し、労働環境の向上を図っている。パウダールームやタイルカーペットの種類を本人たちに選定させるなど女性の意見を積極的に取り入れた環境を整備している。職員の担当作業をペア制にすることで、休日ローテーションが交代制で行い、時間外労働の削減に努めている。管理事務所棟に喫煙室を設け、完全分煙化を図っている。
<ul style="list-style-type: none">安全衛生活動に功績のあった者や優良工事への表彰	<ul style="list-style-type: none">安全週間や安全大会の際に、安全衛生のレベルアップに貢献した職長や作業員に対する表彰を行っている。日常の業務推進において特に輝いている作業員の働く姿を撮影し、額に入れて「ザ職人表彰」と題して表彰している。
<ul style="list-style-type: none">その他	<ul style="list-style-type: none">魅力ある建設現場とするため、仮囲いの一部をクリアパネルにして作業状況を見学できるようにした。また、職員紹介のポスターを作成・掲示し、親しみを感じられるようにしている。作業所意識高揚のため統一ロゴを作成し、あらゆる場面で活用することで現場の一体感を演出している。現場改善を目的として、女性社員だけによる定期的な意見交換会を開催している。